



自然と共生している  
相澤忠洋記念館

館長 相澤千恵子

夏井戸の雑木林を渡る春風はとても爽やかです。足元には春蘭・錨草・ほととぎすなどが見られ、植物の宝庫です。また、鶯はもちろん、コゲラなどが枯木を敲く音が聞こえます。昨夜帰って来ましたら50センチほどの大きなタヌキに出逢いました。野ウサギも居ます。夏は蝉時雨で賑やかになります。当記念館は1ヘクタール(約3600坪)に及ぶナラ・クヌギ・ヤマザクラの自然林の中にあり、記念館の展示だけでなく、春夏秋冬の自然を楽しみ、小動物、小鳥にも逢えます。この自然の中で、石器作り・縄文土器作り・炭焼き体験教室・講演会などを行います。大きな夢として登窯を築きたいとも思っています。又、雨水のリサイクルとして天水槽を設置し、緊急時の飲料水の確保、防火用水の確保もして居ます。そしてボーイスカートのキャンプ場として活用されております。皆様のご来館を季節の自然と共にお待ち申し上げております。

3か年計画

平成14年	4月1日	夏井戸だより第2号発刊
	4月23日(火)~10月31日	写真展
	5月19日(日)	献花式・後援会総会
	8月中~下旬	石器作り
平成15年	9月1日	夏井戸だより第3号発刊
	10月中旬	講演会
	10月中~下旬	縄文土器作り
	1月1日	夏井戸だより第4号発刊
	4月下旬~	特別企画展「土器展」
	5月18日(日)	献花式・後援会総会
	6月1日	夏井戸だより第5号発刊
平成16年	8月中~下旬	石器作り・古代織り体験
	10月	講演会・縄文土器作り
	11月	炭焼き体験教室
	1月1日	夏井戸だより第6号発刊
	4月下旬~	特別企画展「土偶展」
	5月17日(日)	献花式・後援会総会
	6月1日	夏井戸だより第7号発刊
	8月中旬	石器作り
	10月	講演会・縄文土器作り
	11月	炭焼き体験教室

自然と共生している相澤忠洋記念館 相澤千恵子  
展示室のリニューアルに伴うご協賛のお願い

川原井源次

川島正一『菅井進 一九四九年「粗石器に関して」  
の評価について』を読む 田村 徹

小田静夫氏による不二山、権現山、桐原遺跡資料  
見解に対しての「問い合わせ」について

相澤千恵子

会員ネットワーク



夏井戸の雑木林

展示室のリニューアルに  
伴うご協賛のお願い

相澤忠洋記念館後援会会長 川原井 源次

この度、ご来館の皆様により良い展示をご覧いただくために一部改装をいたしました。

①展示スペースを広げた。

このために石器等を収蔵する倉庫を設置。

②スポット照明を設置。

展示効果を上げるために必要。

③換気扇を設置。

特に梅雨時や夏季に必要。

昨年秋に相澤忠洋胸像が見事に完成いたしました。これも皆様方のご厚情の賜でございます。今回の改装は、記念館でよりよい展示をする上で最低不可欠なものとの結論から実行いたしました。しかしながら、財政難の折りから、皆様方をお願いするしかございません。重ねてのお願いは心苦しい限りですが、ご理解いただきまして、皆様方の温かいご協賛をいただきたく、伏してお願い申し上げます。

物置(イナバMBW-220H約7坪)	1棟
スポット照明(レール付)	1式
換気扇(有圧換気扇電気シャッター付)	2台

計150万円

協賛金 1口 5000円

振込み先 ☎ 00510-3-61877

相澤忠洋記念館後援会

期間 平成14年6月30日

なお、ご協賛いただきました方々のお名前はプレートに刻み掲示させていただきます。

川島正一『菅井進 一九四九年「粗石器に関して」  
の評価について』を読む

田村 徹

表題の論文が「考古聚英 梅澤重昭先生退官記念論文集(2001.3.31)の巻頭を飾った。本論文は1949年山形県在住研究者菅井進が「粗石器に関して」と題し山形県宮宿町(現朝日町)釜山遺跡及び大隈遺跡採集の石器を「縄紋」第3輯(1949.3.10)一縄文文化研究会・山形県大谷村(現朝日町)一誌上に報告(執筆は1948.7.10)した内容と、他の研究者の評価及び学史上の位置付けについて、詳細な検討をおこないまとめたものである。

執筆の理由について、岩宿遺跡発掘50周年(1999)に際し様々な企画展が開催されたが、その一つ笠懸野岩宿文化資料館での特別展にともなう展示図録の中で、菅井論文が「岩宿時代の確実な資料を報告したはじめての論文」であり「大隈遺跡の資料を旧石器時代の石器として紹介」したとする点について正し「学史の中で定着しそうな勢い」を阻止するため、とその動機を述べている。

次に菅井報告(和文2頁・英文10行)の詳細な検討を約6頁にわたり行っている。それによれば菅井は大隈遺跡採集の石器の出土層位について「ロームの赤色土と同じらしいので私はロームより出土したものと推定し」石器を欧州旧石器と比較している。しかし、菅井自身「粗石器の類が類例を増すならば編年学—事実上は土器編年—によい方法をもたらす」と述べ「旧石器時代の石器」という認識はまったく無くあくまで「縄文時代の石器」という理解である事を明らかにしている。

さて、他の研究者は菅井報告についてどう評価し学史に残そうとしているのか。川島は藤森栄一(1965)山形県史資料編Ⅱ(1969)森浩一(1971)戸沢充則(1977.96.97)小菅将夫(1999)の7例について検証し、誤りを指摘している。

特に戸沢は機会あるごとに「不運だった菅井論文」という観点で記述①「岩宿へのながい道」どるめんNo.15 1977 ②「岩宿時代研究の出発点」発見と考古学1996 ③「岩宿遺跡より早かった大隈遺跡」朝日町エコミュージアムの小径第4集(1997)し、朝日町・町教育委員会・エコミュージアム研究会企画の「幻の日本初・大隈遺跡旧石器発見60周年記念シンポジウム(1996)での記念講演でも誤った認識と評価を、多くの参加者を前に述べている。具体的批判は川島論文に譲るが、川島は「むしろ国語・英語の単なる読み方の基礎能力の問題である。戸沢①②③のいずれを読んでも他の人と同様か余計誤った読み方をしている」とし、学問以前の事と厳しく研究者としての資質の欠如を指摘している。ここでは川島があえて誤りを指摘しなかった些細な事だが、文献を正確に理解していない一例

として、例えば「縄紋」が地方同人誌でしかもガリバン印刷(戸沢①)であり、従って中央の考古学界から遠い存在であり、結果として注目されず不運であった、という理解(この様な捉え方は他の研究者も同様)について誤りを指摘しておこう。

「縄紋」第1輯(1947.4)は雑誌「あんとろぼす」第7号(1947.10 東京・山岡書店)の雑誌紹介欄に主宰者名・住所・掲載論文。著者・入会案内等が7行にわたり紹介され、さらに第2輯(1948.2)も同誌第10号(1948.10)に同様紹介されている。第2輯の会員名簿によれば大場磐雄・江坂輝弥・野口義麿・藤森栄一・川島守一等々著名研究者が多く名を連ねている。会員は34名(以下次輯二続クとある。又主宰者田原真稔の名は無い)をかぞえ、北は北海道から南は九州福岡迄19都道府県にまたがり、地元山形県は4名、決して地方同好会雑誌ではなかったはずで、むしろ中央や各地の研究者とそれなりの交流があったと見るのが妥当であろう。この点掲載論文を見ても宮城・福島・新潟・富山の各県からの遺跡報告がありこの事を裏付けている。尚「縄紋」が「ガリバン」印刷でない事も指摘しておく。

関連文献を改めて読む時、菅井報告を振り曲げてまで高く評価しようとする人たちは「旧石器の存在を岩宿より早く指摘した報告であるが、地方同人誌故に注目されず不運であった」という主旨で記述しているが、誤りは自明の理なのに、なに故何を目的に誤読(あえて言うならば捏造)するのか。相沢の研究者としての業績評価をことさら低く押さえようとする「謀略」としか言い様のない言動である。

それにしても戸沢の「相沢氏もまた～熱心な採集家であり～」(①28頁)という認識には言葉を失う。

相沢は考古学研究を志したその当初から旺盛な知識欲と活発な行動力そして鋭い観察力については「旧石器時代」という扉を開け、さらには赤城山麓をフィールドにしなが、数多くの重要な遺跡の発見・調査・研究とたえず日本の旧石器時代研究の牽引役として先頭を歩き、その上研究開始時から青少年の指導・育成・啓蒙活動・国立大学講師等々、独学ながらその努力たるや職業研究者も含めた研究者の模範となるものであり、単なる「岩宿遺跡の発見者」ではないのである。戸沢の前述の認識は自身の全てを物語っているのかも知れない。

最後に戸沢自身の言葉「学問としてそれを学んだかどうかを問われるのは、考古学史をある程度きちんと理解しているかどうかにかかっています」(戸沢②)で筆を置こう。

小田静夫氏による不二山、権現山、桐原遺跡資料  
見解に対しての「問い合わせ」について

相澤忠洋記念館

館長 相澤千恵子

2001年12月15日、東京大学弥生講堂で開催された第3回考古科学シンポジウムの資料集の中で、東京都文化庁文化課小田静夫氏は、「新しい日本の旧石器時代研究の構築に向けて」と題する文中の47頁図2「ねつ造（藤村）遺跡以外の前期・中期とされる旧石器時代遺跡の現状」の一覧表に相澤忠洋関係の遺跡3ヵ所及び資料について、疑問を公表されましたので、「問い合わせ」をし、若干の回答を得られたので、その内容と経緯を公表致します。

尚、質問状、返事、電話の内容及び経緯についての公表は、2月25日付の文書で約定期限を過ぎたが、納得のいく回答が得られないので、公表する旨通知し、それにもとづいて公表するものであります。

47頁 図2 相澤忠洋関係の遺跡について(下図参照)

下記の表は、多くの研究者と異なる見解であり、小田氏の考えを聞くべく、私は初歩的で素朴な「問い合わせ」をいたしました。

- 第1信 2002年1月15日 相澤文書発信  
1月17日 小田氏より返書
- 第2信 1月18日 相澤文書発信  
1月22日 小田氏より電話
- 第3信 1月25日 相澤文書発信  
小田氏より返事なし
- 第4信 2月25日 相澤文書発信(回答期限が過ぎたので経緯を公表する旨通知)  
2月26日 小田氏より電話  
2月27日 小田氏より返書及び資料  
同封

先ず第1の質問は「不二山・権現山の2遺跡は、同層中に包含されていた石器群状況を呈していない」とはどのような事なのかと、私には判らないので素朴な質問をしたのです。しかし、これについては、何も触れませんでした。

第2の質問「偽石器も存在、表面採集か」と記されましたので、その石器はどれか指摘して下さいと、電話でもお聞きしましたが中々指示をして下さいません

でした。最後の4通目の書状を発信した所、電話があり、再度質問について回答する様、強く求めた結果、前記の書類中、群馬県史(コピー)130頁図1の2の石器について「偽石器と思われます」と記入されて来ました。「思われる」とは断定ではないと思います。研究者として、この様な曖昧な表現で良いのでしょうか。何故、その石器が偽石器かと言う点について「粗粒石材の粗石器で他の不二山の石器と比較し不自然な存在であり自然物の可能性が高い資料」と回答されました。材質で偽石器と決めています。一番肝心の打面や加工技術等考古学的検討は何も考慮されていないようです。判断理由が材質だけという事になります。

第3の質問 桐原の石器について「権現山に似た石器群」とはどのような事か、とお尋ねしたのですが、全く回答がありません。

第4の質問 「ガジリ痕、鉄分付着あり」と記載されたことについて「細部についての調査、検討は何時、何処で、どなたと、どの様になされたかお知らせ下さい」と尋ねた事に対して「1970年代に相澤さんの研究所へ2回ほど研究グループの一員として訪問した」

「各地で行われた展示会でも、度々資料の観察作業をしたことがある」という事です。何処の展示の時にどのような状況で観察したのか教えて頂きたいものです。そして昨年9月18日から11月11日迄開催された国立科学博物館での「日本人はるかな旅展」では、企画委員会の副委員長でしたのに、「ガラス越しで観察した」と文書の回答でお書きになり、私が電話で「科学博物館で検討しましたか」と質問した事に対し「いや見てません」と明確に否定されました。そして、「ガジリ痕が認められます」と指摘された群馬県史の193頁、図138権現山の1と2の2個の石器について表面と裏面に彩色して指摘されました。他の研究グループと2回私共へ訪ねた時と、展示会場で見ただけで、又、ガラスケース越しに観察したのみで、はたしてこの様に断定出来るのでしょうか。一つの石器を観察するにも丸一日費やす例も多々あるのです。貴方がおっしゃる様に、研究者が検討した後に明確な根拠を呈示して「これは偽石器である、ガジリ痕がある」と表示し、公表されたのなら納得出来ます。その手順を踏まず、根拠を示さず公表されたことに対して、関係者として

調査年	遺跡名	調査者	調査者の所見	科学的な根拠	一般的所見
1948年5月	群馬県不二山	相沢忠洋	古期ローム層頂部から石器を抜きとった岩窟文化より古い	地質学者が後で下部ローム層と判定する	同層中に包含されていた石器状況を呈していない偽石器も存在、表面採集か
1950年2月	群馬県権現山	相沢忠洋	古期ローム層頂部上下二枚から石器を抜きとった岩窟文化より古い	地質学者が後で確認する中部(権現山II)、下部(権現山I)ローム層に	同層中に包含されていた石器状況を呈していないガジリ痕、鉄分付着あり、権現山に似た石器群
1950年4月 1992年(再)	群馬県桐原	相沢忠洋	古期ローム層頂部から石器を抜きとった	鹿沼パミスの下層とされている	(再調査は藤本新一参加)

質問の文書をお送りしたのです。研究者である以上、自らの研究に対し出された質問について真面目に答えるべきだと考えます。貴方の文書の最後の一行に「これ以後は、考古学研究者同志の学術的な場での〔議論〕の内容と考えます」と結んでいます。貴方は、2001年1月21日の東京神田教育会館に於けるシンポジウム「前記旧石器問題を考える」の会場で「考古学はもうやらない」と多くの参加者の前で公言されましたが、その後の言動を見ても、やはり研究者でしょう。素人の私が考えて疑問に思う様な「学術的」発表は、研究者として恥ずかしいのではないのでしょうか。

**2002.1.15 小田静夫様**

「第3回考古科学シンポジウム」の資料についてのお問い合わせ

明けましておめでとうございます。

昨年は旧石器遺跡ねつ造事件で、各地のシンポジウムにご出席され又、原稿ご執筆等でご活躍の事大慶に存じます。

扱て、去る2001年12月15日東京大学弥生講堂で開催された「第3回考古科学シンポジウム」に於ける資料集の47頁の図2「ねつ造(藤村)遺跡以外の前期・中期とされる旧石器時代遺跡の現状」に掲載された相澤忠洋関係の遺跡及び石器資料についてご教示頂き度くお便り申し上げます。

何分にも考古学の専門的知識については素人でございますので下記の事項を分かりやすくご説明下さいます様お願い申し上げます。

- 1 不二山・権現山の2遺跡について「同層中に含まれていた石器群状況を呈していない」とはどの様に理解したら良いのでしょうか。
- 2 「偽石器も存在、表面採集か」と記されましたが偽石器はどれなのか、表面採集はどの石器か、個々の判断理由をお教えてください。
- 3 桐原の石器について「権現山に似た石器群」とはどの様な事なのでしょう。
- 4 その他「ガジリ痕、鉄分付着あり」とありますが

各資料の細部についての調査、検討は、何時何処でどなたとどの様になされたのかお知らせ下さい。石器については「赤城山麓の旧石器」(相澤忠洋・関矢晃共著、講談社)1988年11月刊)の図版ナンバーにてご教示ください。ご多忙中のところ甚だ恐れ入りますが上記4項目について2002年2月15日までにご教授下さいます様お願い申し上げます。

尚、「赤城山麓の旧石器」をお持ちでない時はご一報下さい。当方から当該部分のコピーをお送り致します。  
相澤千恵子

**2002.1.17 相澤千恵子様**

拝復、2001年12月東京大学でのレジウメについて、ご質問を頂き恐縮です。この内容は、現在「ねつ造問題」で揺れている日本の考古学会の現状をまとめたものです。

不二山・権現山出土とされる石器については、学生時代から関心があり、1970年代に貴研究所へ2回ほど研究グループの一員として訪問したことがあります。また各地で行われた展示会でも、度々資料の観察作業をしたことがあります。

両石器群は、芹沢長介、岡村道雄氏らが、「前期旧石器」を推進する資料として、60年代から積極的に利用しております。私は東京の発掘成果で、前期旧石器を否定する立場から両氏らの資料を検証し批判してまいりました。その後、「藤村石器」が登場し、その基本石器型式に「権現山型尖頭器」や「斜軸尖頭器」が存在していました。

今回、日本の考古学の信頼性をも疑われる大事件が起こり、「藤村遺跡・石器」が灰色になると、こんどは藤村関係以外の前期・中期遺跡が再浮上し、その中に「不二山、権現山」があったのです。この両者と桐原出土の資料は、残念ながら「藤村石器型式」で記述されてきた経緯があります。従って、この事件は、新しく正しい「石器型式」で叙述される必要があります。いずれ、この方面の研究は行われるはずで

ということ、すでに、一部の研究者間では周知で

**広沢町のマンモス店舗 ホンダプリモ河原井**

取り扱い車種  
シビック・シリーズ/ライフ・シリーズ/パモス/ザッツ/アクティ・シリーズ  
セイバー/トルネオ/オデッセイ/ステップワゴン/ストリーム/モビリオ/フィット/インサイト/パートナー

---

— あなたの身近なカーディーラー —

**ベストサービス指定店・関東運輸局指定整備工場**  
**ホンダプリモ河原井**  
桐生市広沢町5-1628  
TEL0277-52-6681 FAX0277-53-2283

至足利・太田

至桐生市街  
至前橋

あった「資料検証の必要性」を、他の遺跡と共に表にした訳です。項目内容は、以前から私が個人的に調査していたものを中心にしています。さらに昨年行われた国立科学博物館での展示・公開資料の、ケース越しでの観察でも、積年の事実関係が追認でき意を強くしたことを申し添えておきます。

相澤忠洋コレクションは、日本の考古学研究史を語る上で大変重要な資料なのです。是非、日本の旧石器研究発展のため、正しい評価が与えられることを願って、この両石器群の「再資料化」作業をし、しかるべき研究者、研究機関などで実施されることを期待しております。なお、文中、非礼な表現があればご容赦ください。

小田静夫拝

#### 2002年1月18日 小田静夫様

「資料についての再度お問い合わせ」

前略 この度はご多忙の所早速ご返信頂き有難うございました。ご書面拝読致しましたが、私がお問い合わせしました4項目について何ら理解できず、具体的にご教示頂き度く、2002年1月15日付にて発送の文書再度同封致しました。

何卒よろしく願い申し上げます。草々

相澤千恵子

#### 2002年1月22日 小田氏より電話

小田「小田です。お手紙頂きまして、藤村の前期旧石器が捏造と言うことで、学会で検討会を始めていますが、私も相澤さんの資料を全部見ていませんので、私共の方に全部見せて頂くと良いのですが、そうちらにも、しかるべき先生方が居られるので、その先生方に検討して頂いては如何ですか。その時は協力致します。藤村の石器が全部駄目になり、それまで無視されて来た相澤さんの石器が注目されて来たわけです。私も相澤さんの資料を全部見たわけではありませんが、20年以上前の1970年代にそちらに研究所に伺って見せてもらったことがあります」

相沢「上野の科学博物館で検討しましたか」

小田「いや見てません。展示されたものを見ました、

そのまま見ただけです。そちらにも大御所の先生方がいらっしゃるでしょうから検討されると良いと思います。その時は協力しますよ」

相澤「具体的に教えて頂きたいと思いまして手紙を差し上げたのですが」

小田「それはね、藤村の検証が終わってから私達と一緒に資料を見せて頂いて一緒に研究したいと思っているのですよ。その事について後でお話ししたいと思っているのですよ」

相澤「そうですね。納得がいきませんね、では又」

#### 2002年1月25日 小田静夫様

前略 先日(1月22日)はお電話有難うございました。お電話によりますと「遺跡ねつ造事件によって藤村石器が駄目になり、それ迄無視して来た相澤石器が注目されて来たので、今迄の自分の研究を、他の遺跡と一緒に相澤さんの石器についても書いたまで」とおっしゃいました。

しかし、私が先便にてお問い合わせ致しました4項目について、お話のなかでは「協力したい」とおっしゃいましたが、何もお答えが無く、何も理解出来ずに、誠に申し訳ございませんが再々度のお便りを致します。

2001年12月15日東大の「考古学シンポジウム」の資料集に「偽石器も存在」と明記し、公表されておりますので、どの石器が偽石器なのか等、具体的に知りたいのでご教示ください。その事が「協力」される第一歩です。

自らの名に於いて公表した内容について、責任ある、又、誠意ある論拠を示すことが研究者としての責務かと思えますので是非共、先にお問い合わせ致しました項目について、研究者として、お電話ではなく、文書で2月15日迄にご教示下さいます様重ねてお願い申し上げます。草々

相澤千恵子

#### 2002年2月25日 小田静夫様

日射しも日毎に春めいて参りました。ご健勝の事とお喜び申し上げます。

木材・新建材・各種建築設計・施工



株式  
会社

久保田材木店

桐生市浜松町2丁目10番24号  
電話 (0277) 45-2785番(代)  
FAX (0277) 45-2786番

扱て、2002年1月15日より「第3回考古科学シンポジウム」資料集(47ページ)図2「ねつ造(藤村)遺跡以外の前期・中期とされる旧石器時代遺跡の現状」について4項目のお問い合わせを2月15日までにご回答頂き度く再三にわたりお願いをいって参りました。

しかしながら期限を大幅に経過致しましたが未だ納得の行くご教示が頂けません。

つきましては、私がお問い合わせ致しました内容と経緯をしかるべき機関に公表いたしますのでお知らせ申し上げます。敬具  
相澤千恵子

#### 2002年2月26日 小田氏より電話

小田「お手紙が来ましたのでね。前の説明で良いと思っていたものですから」

相澤「どれが偽石器かと言う事をお知らせ頂きたいと思ひまして」

小田「私、前にも言いましたけれど、全部資料を私達の方で勉強させて頂けるのであれば、そちらの評議員の先生方と一緒にね。ご協力することはやぶさかではないですよと言ったつもりです。ですから、その一つだけ偽石器だとか言うやりとりはね、私としては、どうかと思うのですよ。今本当にやるとしたら本腰を入れての方が良いと思うのですよ」

相澤「本腰を入れずに、公表されたわけですよ」

小田「いや実際に見た中にはありますよ」

相澤「ですから。その見た中にある石器を教えて頂きたいとお願ひしたつもりです」

小田「図録の中ですべてなんて言いますからね、私『岩宿の旧石器』(注・赤城山麓の旧石器の誤りか)という本持ってませんね。展示会で、あっちこっちで展示されたものとか、杉原先生とか芹沢先生の発表された概説書の中の、そういうものについての資料の観察ということですね、全点を見ているわけではないのですから、その範囲内で良いですか」

相澤「その範囲内で結構ですからご指摘ください」

小田「ああ、そういう意味ですか、私、全部を調べてはいけないのでね、お互い本腰をいましてよ」

という話しだったですよ。そちらでも芹沢先生とか加藤先生とか、そういう大御所が名前を連ねているでしょうから、私みたいな若輩者が全部について研究するわけには行かないと思っていたのですがね。私の持っている図録の中の写真を丸をつけて、これは私は偽石器だと思いますと言うことでお送りすれば大丈夫ですか。その範囲なら構わないですけど、私、本当に良い資料をお持ちだったので、変な小さな、そういう事で調べるのではなくて、藤村の前期旧石器の捏造が終わってからも本腰を入れて、一緒にやられたらと思っていたのですよ。そういう意味でちょっと待ってと電話したわけです。私、何も敵意など持っているわけではないし、考古学研究者として心配しているだけです。その心配事に対する安心をそちらに、やってあげられる様でしたら、そちらに書類をお送りしても構いませんよ。その範囲内でね。僕はね、全部の(相澤の)コレクションを私自身が勉強させて頂ければ一番良いのですが、今はそういう時期ではないと思うのです。5月に考古学協会で藤村関係のものを全部清算しますから、その後で日本の旧石器時代はどう構築するかと言う中で、相澤さんが集めた4万年5万年前の資料について皆でどう評価するかと言うことを今、考古学協会は考えているわけですよ。そういう事で館長さんと私との間で、やり取りしているのは何か淋しいと思うのです。偽石器については、私自身の評価ですからお教えすることはやぶさかではないです。私が偽石器と考えた資料についての書類は、お送りすることは可能です。それだけで良いわけですね」

相澤「その他の私が書いた事に対してお答えください」

小田「あれはね、もう少し一緒にね。資料を検証したり、いじったり皆で研究されたら日本の為非常に良い仕事だと思うのですよ。どの石器が本当に我々が利用出来る石器なのか、こう言う石器はちょっと危ないとかね、そう言う真摯な勉強会なら協力することが出来ます。書類はすぐ送ります」

相澤「お願いします」

命を守る | M健康住宅と



山崎建設株式会社

オール電化の



Fasファースの家

前橋市紅雲町1-13-2

家造り, 80年

木を生かす作りの実績  
家中どこでも一年中春  
の暖かさ、でも電気代  
は驚く安さの省エネソ  
ーラー住宅です。

新築、増改築、営繕 何でもお気軽に。電話027-221-0305

2002年2月27日 相澤千恵子様

拝復、2001年12月東京大学シンポのレジウメについてご質問を頂き恐縮です。

まず以下に、貴館長からの書簡と私の回答経過を整理しておきます。

- 第1回目の質問状(2002. 1. 15#, 2002. 1. 16#) → 書状で回答(2002. 1. 17#)
- 第2回目の質問状(2002. 1. 22#, 2002. 1. 22#) → 電話で回答(2002. 1. 22)
- 第3回目の質問状(2002. 1. 25#, 2002. 1. 29#) → 前回の電話回答で済
- 第4回目の書状(2002. 2. 25#, 2002. 2. 26#) → 電話で内容確認(2002. 2. 26) 書状で回答(2002. 2. 27#)

不二山、権現山とされる石器については、2002. 1. 17#で解説したような学界の研究史との現状があります。それをふまえて、電話でお約束した内容について記します。

①偽石器について

不二山の石器の中に、1985、86年に私が宮城県の前期中石器遺跡で指摘した、粗粒石材の「偽石器(コピー図1)」が認められます。とすると、自然物の可能性が高い資料になります。

②ガジリ痕が認められる石器について

権現山の石器の中に、断面採集では付き難い「ガジリ痕(コピー図3、4)」が認められます。こうした破損は畑などでの農作業によるキズ痕と考えられています。とすると、表面採集品の可能性が高い資料になります。

「相澤忠洋コレクション」は、日本の考古学研究史を語る上で大変重要な資料です。日本の旧石器研究発展のため、正しい評価が与えられることを願って、この両石器群の「再資料化」作業を、しかるべき研究者、研究機関等で実施されることを切望します。なお、文中、非礼な表現があればご容赦ください。

これ以後は、考古学研究者同志の学術的な場での議論」の内容と考えます。 小田静夫 拝

2002年2月27日 小田氏より返書と書類受信

- 書類 群馬県史 資料編1(原始古代)抜粋コピー
- 不二山遺跡 129頁~132頁 130頁図102断
- 権現山遺跡 191頁~197頁 193頁図138の1、2断 1120頁 県史編さん関係者名簿
- 参考資料として「人文学と情報処理」vol. 34
- 特集 — 前期中石器遺跡捏造事件の真相を語る(発覚前) 石器や年代などに疑問が残る「遺跡」 124頁~126頁 小田 静夫

(石器真偽判定) 前期中石器観察記

148頁~149頁 竹岡 俊樹

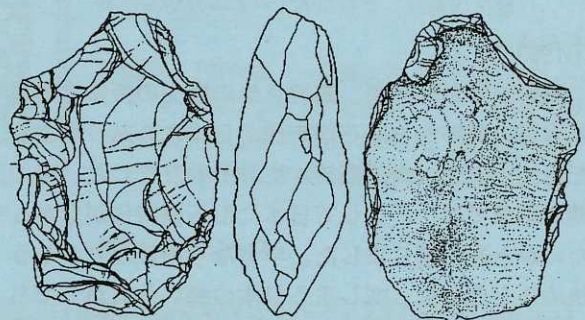


図1

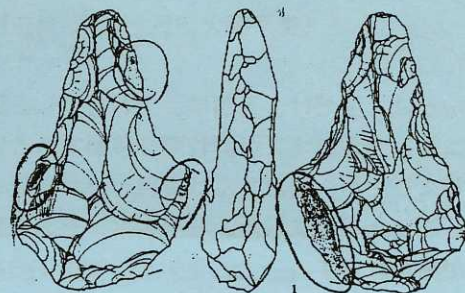


図2

小田氏からの送付資料

図1「偽石器と思われます」

図2「ガジリ痕が認められます」

と記してある。

相澤忠洋記念館リニューアルオープン  
特別企画展 写真展「相澤忠洋の世界」

4月23日(火)~10月31日(木)

モニュメント除幕式 5月19日(日)

相澤忠洋記念館後援会行事案内

献花式・総会 5月19日(日)

相澤忠洋記念館ボランティア募集

夏井戸のコナラ林で自然を楽しみながらの作業があります。ご参加をお待ちしています

★記念館解説者 ★資料整理

後援会入会キャンペーン(4月~9月)

入会特典がある今がお得です。

入会随時：お問い合わせください

石器作りなどの体験教室に参加できます。

## 会員ネットワーク

記念館にある感想ノート・ハガキより（敬称略）

①1999.10.3

昭和34年か35年頃、高校2年の歴史の授業で群馬県岩宿の遺跡から旧石器時代が日本にもあったようだと言った片山先生（太田高校）におそわりました。その時の印象では、どうして日本に旧石器時代がなかったのかと逆に感じました。学者なり権威なりがそう決めるとそうになってしまう日本の悪い体質が今でも綿々と続いているようです。

（館林市・新井 良秀 リミ）

②1999.10.9

考古学を勉強するものとして大いに感銘を受けました。

（東京都大田区・鈴木 晃生）

③1999.11.13

相沢さんとは1度だけ、人類学会でおあいしました。私はニホンザルのオスが群れ間を移動するという発表をしましたが、相沢さんは権現山のお話を休憩時にしていただきました。石器のホンモノを見ると、目が開かれます。

（京都府城陽市・好廣 眞一）

④2000.3.31

ついに念願の相澤記念館の門をくぐることができました。中学校教員として、先達者の教えをきちんと生徒に伝えていきたいと思います。今回は、生徒をつれてこれよう頑張ります。（新里村・長澤）

⑤2000.4.

今回は孫を連れて参ります。孫はこれの学問が大好きです。

（津田）

⑥2000.5.27

石器とか見て、いいなあと思いました。石器ほしいなと思いました。相沢さんのことがちょっとわかりました。

（群馬県新田町・清野）

⑦2000.6.4

学歴で真実がかくされるのはおかしい世の中だと思います。歴史も発見者（実証者）も心理の追求を求める必要あると思います。歴史も動けば世の中も

動く相互関係にあると思います。心理の追求を心から祈ってます。

（神戸市・松崎 英治）

⑧2001.3.20

20年来の念願としていた相沢忠洋記念館訪問がやっと実現しました。岩宿で最初に発見された石器群そして尖頭器には単なる遺物としてのみではなく、人生の師である相沢先生の情熱の結晶としての輝きを感じました。

（木更津市・菅谷 雅美）

⑨2001.4.1

高校の頃に、歴史（日本史）の先生が1時間ほどかけて岩宿遺蹟の話をして下さったのがとても印象的だったので、いつか資料をたくさん見たいと思っていました。以前笠懸町の資料館に行ったとき、正直本物がなかったせいでがっかりした記憶があったので、こちらに来てしっかり見る事ができて良かったです。

（埼玉県利根町・北爪 美奈子）

⑩2001.9.16

すごいせきがあっておもしろい。なんか石がダイヤモンドみたいできれい、ピカピカ光ってる。でもよく石をいっぱい手にいれてすごい、ほくもほしい。

（桐生市・岩森 隼人）

⑪ハガキより

前略 先日はご歓待いただき厚く御礼を申し上げます。三十余年振りにお訪ねし、昔時の記憶を辿っておりました。相沢先生自ら説明されたことを思い出しました。権現山をはじめ、展示資料を間近に観察でき、大変貴重な体験でした。改めて資料の学術的価値を再認識することになりました。唯、不二山・桐原の石器観察が片面のみに了ったことが心残りです。いずれ、機会を得て再訪を心に期しております。発掘捏造を受け、中期旧石器以前を否定する風潮にあるのは残念ですが、冷静な判断が下される時宜を待っております。草々

（同志社大学文学部 助教授 松藤 和人）

ご意見・ご提案・ご感想をハガキ・FAXでお寄せください。お待ちしております。

なお、前号のホームページが間違っていました。お詫びして訂正いたします（1P上部に記載）。

雑木林 夏井戸だよりNo2をお届けします。本号は相澤忠洋の業績に係わる記事2篇を中心にまとめました。相澤館長、田村氏ともに研究者たる者は、自らの名において述べた一言一句に全責任をもち、出された疑問・質問にいかにか誠実に対処するか、その学問姿勢を問う内容です。さて、先の役員会で敷地全体を有効に活用する「自然と共生」構想が出され話し合われました。様々な体験を通して身の周りの環境を考えてみませんか。林で会いましょう。

### ごあんない

開館時間 10:00~17:00 駐車場 大型バス可  
休館日 月曜日、12月29日~1月3日 交通 東武赤城下車 4km  
入館料 大人500円 子ども200円 夕シ 10分  
団体割引 大人400円 子ども150円

相澤忠洋記念館会報 No.2 2002(平成14)年4月1日発行◎

発行 相澤忠洋記念館

編集 相澤忠洋記念館後援会

〒376-0131 ☎ 0277-74-3342 FAX 74-3350

群馬県勢多郡新里村奥沢537